

不二速報

発行日 2014年1月24日

第9号 第9回団体交渉 および スキーと温泉の集い報告号



「55歳昇給停止・抑制および現給保障廃止」問題 14年1月1日の施行を阻止！！ 大学は代償措置について 組合との協議へ

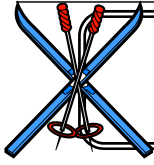
第9回団体交渉報告

- 去る12月26日1時より、本年度第9回交渉が行われました。
協議事項は、55歳昇給停止・抑制および現給保障廃止問題です。
前々回の交渉時より、今回の大学側の提案した就業規則の不利益変更について、組合側は、労働契約法の観点から年齢差別に当たること、やはり契約法に基づく就業規則の不利益変更を可能にするだけの合理性（契約法10条）に欠けることを主張してきました。後者については、国家公務員の給与水準に大きく満たない静岡大学教職員の給与を人事院勧告に基づき減額する不当性、および給与削減を行うだけの経営状況についての適性かつ十分な説明がなされていない問題を指摘してきました。
- 以上の問題について、大学側は組合の要求に応じて、12月24日付けで文書による回答を行いました。今回の交渉は、この回答文書についての組合側意見の表明、大学への質疑から始まりました。とくに就業規則の不利益変更についての合理性問題が焦点となり、大学教職員の昇格スピードが国家公務員に比べて相当に遅いこと（それによる賃金格差）、大学側提示の財政状況およびシミュレーションに多く疑問の残ること（団塊世代の退職が進み組織の年齢構成上、若年層が増えていくにも関わらず人件費だけが上昇すること等）などが焦点となりました。
- こうして、不利益変更の合理性については議論が平行線を辿りましたが、交渉終盤に至って、前田理事より、今回提案された改訂就業規則（昇給停止・抑制および現給保障廃止）の来年2014年1月1日施行は見送るとの発言がなされました。これまで、組合側からは、不利益変更の合理性を構成する要件として代償措置の提案も並行して要求してきましたが、理事はこの点に言及しました。今回の不利益変更が教職員の職務への動機付けに影響の大きいものであることは認識しており、なんらかの代償措置が必要とは認識している。しかし、大学財政上可能な措置については、検討に時間を要する。この点については、継続的に組合と協議していきたい、と。
- 以上、年内最後の交渉に至って、大学側は原案を強行せず、施行を見送り、代償措置についての検討に入るとの見解を示しました。
11月15日の第6回より4回の交渉を重ねた成果であったと思います。
みなさまのご支援に感謝しますとともに、実質のある代償措置が得られますよう尽力していく所存です。

【憲法、労働法、行政法担当教員の皆様へお願い】

国家公務員組合の全国組織である国公労連が2012年5月に提訴した「公務員賃下げ違憲訴訟」が、立証段階を迎えつつあります。国公労連はこの裁判での勝訴をめざし、憲法・労働法・行政法等の専門家の「賛同署名」に取り組むとのことです。全大教では、その趣旨に賛同し、全大教加盟組合の組合員の中で該当する組合員の皆様に賛同とご協力を呼びかけます。今後、国公労連から個別に郵送によって要請があるとのことです。その際にはどうぞよろしくお願いいたします。

執行委員長 原田 唯司



今年も楽しかった！！スキーと温泉の集い

— 2013.12.20~12.23 志賀高原スキー場 —



27回目の今回は2年ぶりの志賀高原。総勢20名で楽しく行ってきました。

お天気は降ったり晴れたりでスキー場にしては上々。最終日は晴れて、遠く北アルプスの白い峰々が並んでいました。

広い志賀高原、宿の周辺で穏当に滑る方たちや遠く焼額山や奥志賀高原まで遠征するグループなどさまざまですが、皆さんに初滑りを楽しんでいただけたものと思います。グレンデサイドの宿にはにごり湯の温泉があり、ゆっくりできました。

来季は仕事納め12月26日(金)夜出発で、赤倉温泉か白馬方面を考えています。ぜひ一緒にしましょう！

今年も夫と二人参加しました。三連休は家族でのんびりもいいけれど、やっぱりスキーはストレス発散でき最高ですよ。湯の華浮かぶ温泉も、自家製の山ブドウ酒もよかったです。この企画を通して多くの方々と知り合うことができ、いろいろな話を聞け楽しかったです。

組合員のみな様、来年は是非ごいっしょに行きましょう。

最後に根本先生、毎年ありがとうございます。



私も80歳まで滑りたい！

定年の年に参加して以来、3年ぶり3回目の参加です。行きの夜行バス、ほとんど眠ることが出来ませんでした。それでも朝からなんとか頑張って1日滑りました。佐藤元学長も一緒に滑っていたのですが、元気なのに驚きました。佐藤さんは80歳までスキーをやるとおっしゃっていました。実は昨シーズン、別のスキーに誘われて同じく志賀高原に行ったのですが、その際に40年振りくらいに新しいスキーを買いました。その時は、あと5年くらいは滑れるだろうと思って買ったのですが、私も80歳まであと10数年元気でスキーをやりたいと考えるようになりました。

楽しいツアーだったのですが、現役の組合員の参加者が少ないのが気になりました(それで、私にも声がかかったのでしょうか・・・)。大学を取り巻く状況がますます厳しくなっていますが、時には息抜きや親睦のために多くの組合員が参加してくれたらと思います。

組合スキーと温泉のつどい

組合のスキーは2度目の参加でしたが、広い志賀高原で、いろいろなコースを滑ることができてとても楽しかったです。連休だったのに思いのほかすいていて、貸切グレンデ状態だったときもままあり贅沢なひとときでした。日ごろの運動不足がたたったり、初日の午後には足が痛くなり、最終日まで持ちこたえられるのか危ぶまれましたが、宿の御馳走と湯の花が浮かぶ温泉、また参加者の方々のお心遣いに支えられ、最後まで楽しむことができました。幹事の根本先生、参加者の皆様、お世話になりました！またぜひ参加したいです。



スキーのよさは・・・?!

日頃僕は、スキーは北海道が第一で、第二は蔵王かなと思っていますが、今回のツアーは期待以上に大満足でした。スキー行の良し悪しは、雪質とゲレンデの状態や展開、その時々天候によって決まりますが、それ以上に一緒に行く仲間次第だということです。今回の志賀高原がそうでした。

夜立ちの長距離バスはやはり、老体には堪えましたが、リーダーの根本さんの心遣いと、かつての同僚や友人など気の置けない同行の皆さん、それと「タニ研」の生きのいい学生さんたちが良かったです。何といっても、可能性を秘めた学生さんがかもし出す、あの雰囲気がいいですね。元気が出ます。

でも初日は散々でした。それは迂闊にも、技量が格段に違う根本グループと一緒に滑ったことです。体力、技量ともに劣る僕を意に介せず、自分たちのペースでどンドン滑っていくのです。これには参りました。昔から言われている「名選手、必ずしも名監督にあらず」という言葉を、つくづく実感しました。とくに初日の午後はひどい状態で、しまいにはゲレンデに立っているのが精一杯、これでスキーは体力的にもうダメかと絶望的な気分になったくらいです。

それでも、前夜のバスでの寝不足と夕食時のアルコールで、ぐっすり眠れたせいか、翌朝は快適に目覚めました。それと前日に懲りて、早々に「根本グループ」からの離脱を宣言し、穏健な「榛葉グループ」に入れてもらったことです。このグループは皆さん親切で、僕のペースを気づかって滑ってくれた上、とくに僕と同年で指導員資格を持つ大島さんに、基本から丁寧に教えて貰えたのが何よりでした。北海道生まれの僕はまったくの我流で、スキーの滑り方というものを教えて貰ったのは、今回が初めてでした。考えるとムチャな話です。

これで僕は、前日失いかけていた自信を取り戻しました。恒例の蔵王行きはもちろん、榛葉さんと「80歳までは滑ろうね」とした約束も果たせそうだからです。いま、3月初め頃の蔵王行きを計画しているところです。さらに条件が合えば、もう一度くらいどこかに行きたいとも思っています。

スキーの楽しさは、ゲレンデの状態や気象条件もさることながら、結局、どんな人たちと一緒するかに懸かっていると、改めて知ったことです。その意味で、今回のツアーは大満足でした。来年も誘ってもらおうかなと思ったりしています。よろしく。

組合のスキーに参加して

ぼくはふだんヘブンスそのはら(南信)で同じようなコースしか滑っていなかったのですが、志賀高原で、たくさんコースを回ることができてとても楽しかったです。雪もパウダースノーでとても滑りやすく、たくさんの方と話げできたことも楽しかったです。皆さん、どうもありがとうございました。また日程があうようだったらぜひ参加したいです。



大変充実した三日間でした。参加者の方々も和やかに交流ができて、楽しいスキーをすることができました。ありがとうございました。来年も参加できれば幸いです。





13.7.19 大学財務関係についてのレクチャー受けました！

組合執行部では、2013年7月19日、大学財務に詳しい佐藤誠二先生に、私たちの疑問についてお聞きしました。内容は、目的積立金が「もう無いのだ」という現財務理事発言の意味、人件費に関して、静大の経営に関する問題点などについてお話しいただきました。

下の表は、静岡大学のホームページで公開されている財務諸表をもとに作成した法人化後の教育研究環境整備基金積立金（いわゆる目的積立金、以下目的積立金）に関する一覧表です。

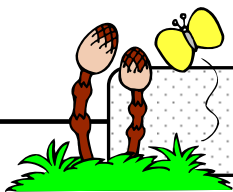
(単位:千円)

年度	平成 16	平成 17	平成 18	平成 19	平成 20	平成 21	平成 22	平成 23
期首残高	-	-	331,956	517,745	719,959	1,117,800	-	-
当期増加額	-	444,103	485,477	656,437	767,517	573,059	-	1,088,470
当期減少額	-	112,147	299,688	454,224	369,676	1,690,859	-	111,772
期末残高	-	331,956	517,745	719,959	1,117,800	-	-	976,697
積立金取崩しの明細(減少)	-	環境整備	環境整備	環境整備	環境整備	環境整備	-	施設改修 84,101 修繕 27,671
人件費の節減額	職員 218,000	職員 159,000	教員 202,000 職員 201,000	教員 432,000 職員 137,000	教員 284,000 職員 201,000	教員 583,000 職員 217,000	記載なし	記載なし

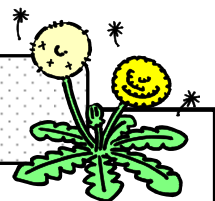
先生からのお話を参考にしながら、この表からわかることを考えてみました。

この表の当期増加額は、前年度の当期末処分利益から振り分けられます。したがって、平成16年度の人件費の節減額が218,000千円ですが、これが平成17年度目的積立金の増加額444,103千円の原資の一部となっていると考えられます。平成19年度から21年度の当期増加額に占める前年度の人件費の節減額をみると、順に61%、74%、85%となり、「目的積立金は、主に人件費の節減から生じている」ということがわかります。では、このようにして生じた目的積立金を何に使っているのでしょうか。積立金取崩しの明細で見ると、「環境整備」といった大枠でしか把握することができません。また、平成22年度以降は、人件費の節減額の注記がなくなり、目的積立金がどこから生じたものかを細かく追求することができません。

先生からのレクチャーを受けて、組合として、このような目的積立金がどこから生じたものか、それが何に使われているのか、さらに、現在5~6億円ある学長裁量経費がどのように使われているのかといった予算の使途を明確にすることを、大学当局に要求すべきだという方向性を確認しました。



本年度退職・転出される皆様 * まずは書記局までご連絡ください! *



◆ 「教職員共済」「全労済」ご加入の方、「労金」ご利用の方

ご退職にあたっての手続き書類をお送りします。必要なお手続きをお願いします。
1月中にはお送りする予定ですが、届かない場合は書記局までお問い合わせください。

◆ 「教職員の退職後の手続きガイドブック」(文部科学省関係機関職員向け：教職員生涯福祉財団発行)

今年度退職予定の方に配布いたします。来年度退職予定の方もご希望がありましたら、お分けします。
ご希望の方は書記局まで(部数に限りがあるので先着順とさせていただきます。)